

トコトコダンダン
tocotocodandan

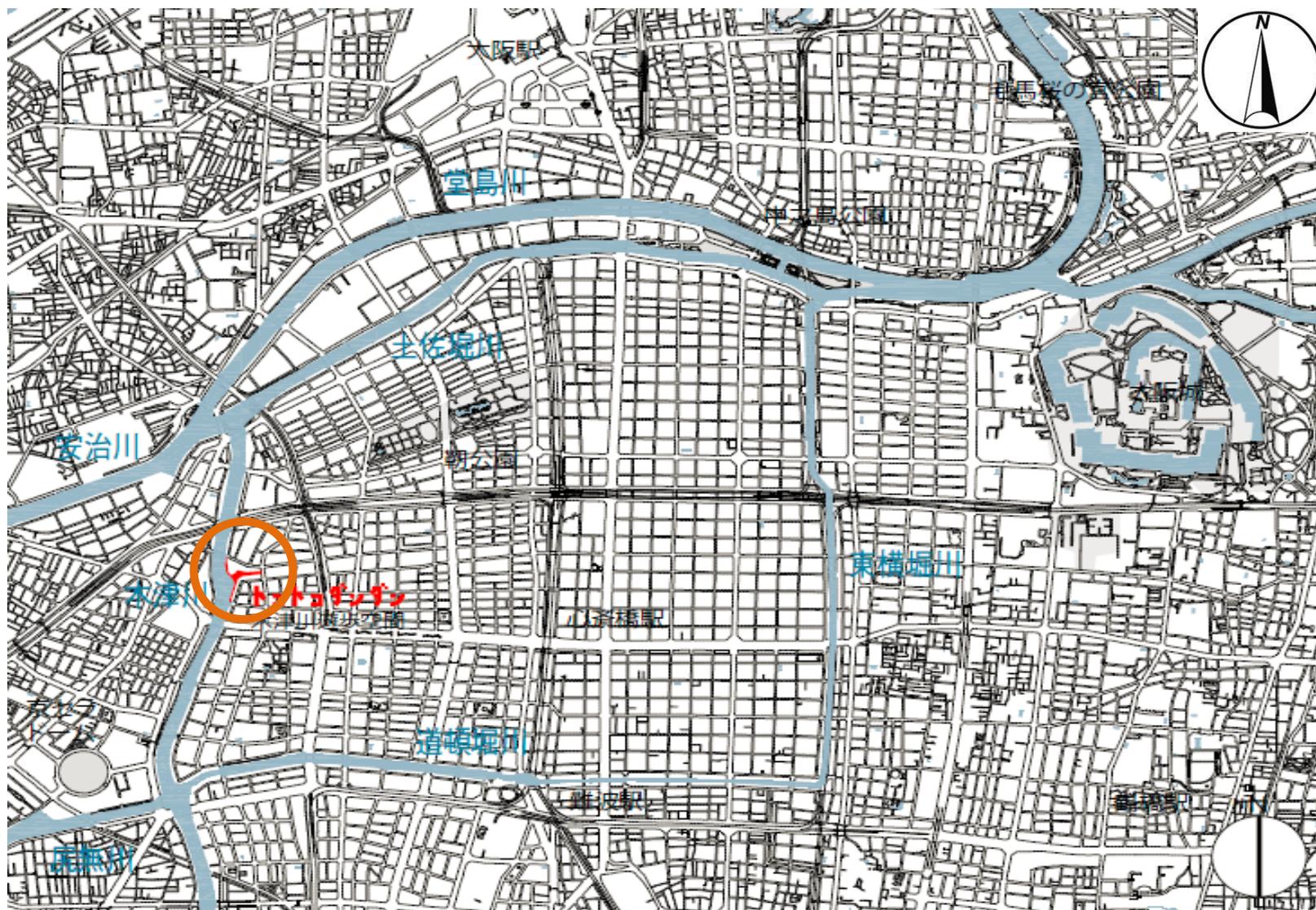
～DESIGNで人・まち・水辺をつなぐ～

木津川遊歩空間整備事業

大阪府 西大阪治水事務所







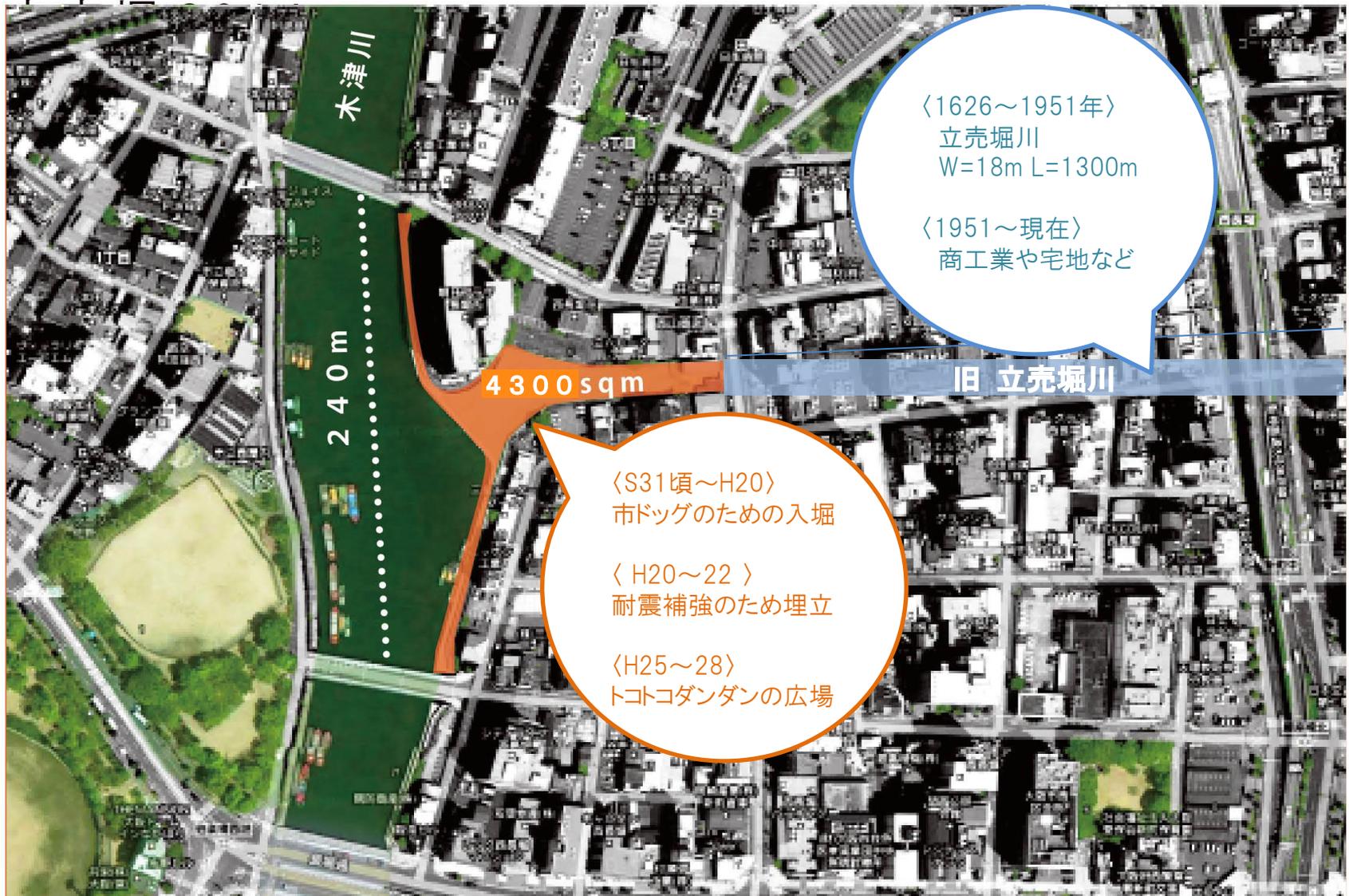
所 在：大阪市西区立売堀 6～新町 4 丁目
最寄駅：地下鉄 阿波座 or 西長堀

木津川の遊歩道事業



対象エリア:木津川（松島橋～大渉橋）左岸

だんだんばたけでハマベをつくる、立売堀のマーケットプレイス



遊歩道延長 = 240m · 広場含む面積 = 4,300m²

入掘りがあった頃の風景



対岸に公園が
あって見通しが
とても良い

旧入掘
ドッグとして利用
されていた

背景と課題

1. 環境的特性

- ・高潮対策のために構築されたカミソリ堤防で水辺とまちが分断されている
- ・キタやミナミと比べて比較的落ち着いた職住連帯地域なので、
ふつうの遊歩道をつくっても活用されにくい
⇒キャラ付けが必要
- ・他の遊歩道と異なり、広場があるのでデザインが生きる可能性が高い
- ・大阪港の玄関口として栄えた歴史があり、一部に建造物も残る

2. 都市整備行政主体で行う取組みの限界

- ・維持管理予算の確保が困難
⇒手入れの行き届かない公園や遊歩道が散見される(全国的課題)
⇒地域が愛着を持って都市インフラを活用・維持管理できる環境づくり

3. 先に実施したコンペが棚上げに

- ・下流側別区間の遊歩道計画で進めたコンペ案が事情により棚上げ状態に
⇒あらたな手法を検討する必要

まちから見るカミソリ堤防



水害からまちを守る防潮堤：高さ3m程度でまちと水辺が分断

川から見るカミソリ堤防



2013年 耐震補強後、遊歩道整備前
化粧コンクリート増厚と鋼管矢板護岸（笠コンクリート有り）

周辺の歴史的建造物



1920年竣工 日本聖公会 川口基督教会
登録有形文化財、大阪開港時の面影を残す

周辺の文化施設



2012.4開館：府立江之子島文化芸術創造センター・通称enoco
アート&デザインの創造力で都市を元気にすることを目指す

課題解決へ 新たなまちづくりへのチャレンジ

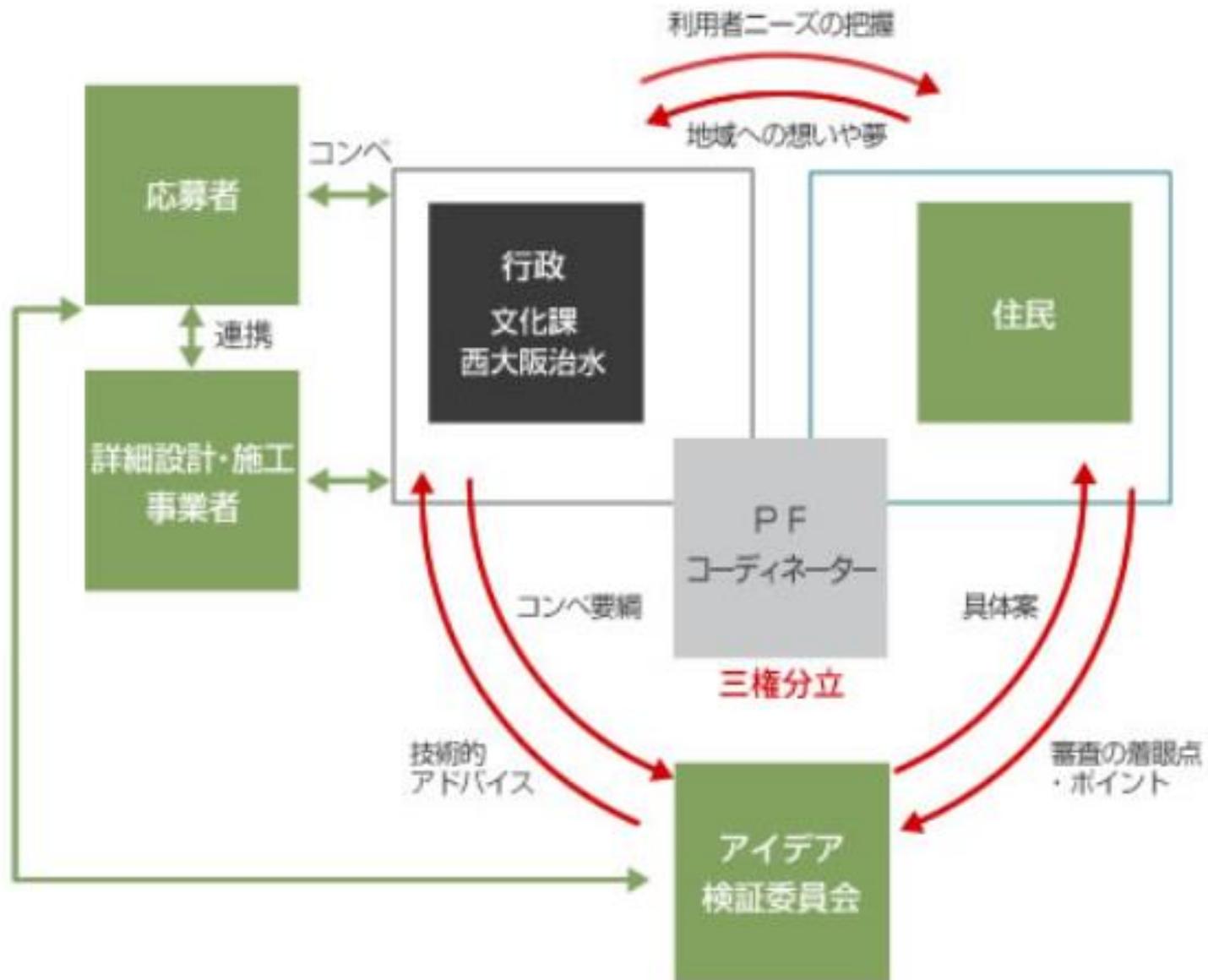
場の特性を活かし、デザインのチカラで計画・設計・施工・維持管理・利活用に至るまで、最大限のパフォーマンスを発揮できて、地域が愛着と誇りを持てるような、都市インフラの魅力を高める新たな手法を模索



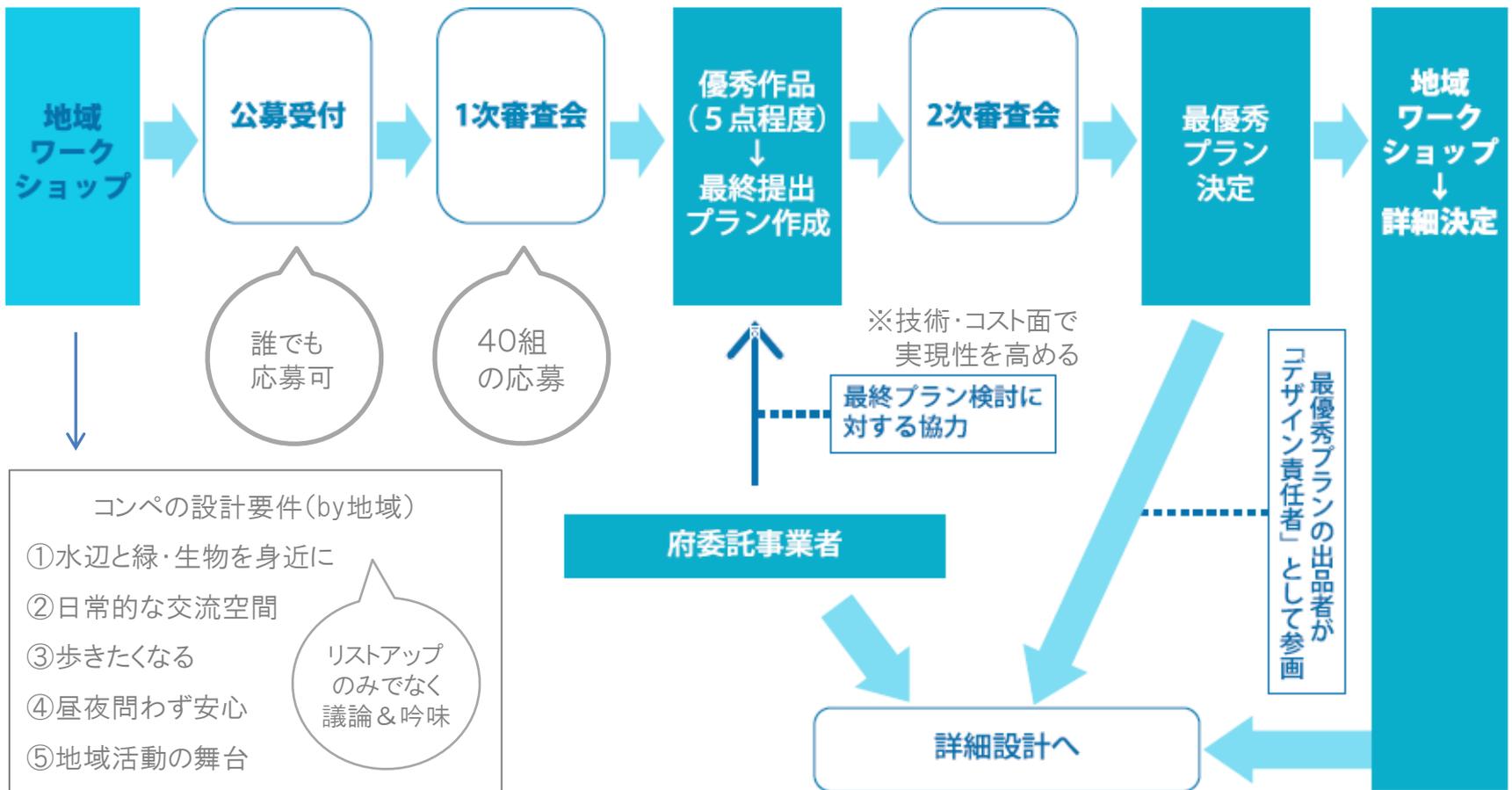
大阪府の土木部門と文化部門(enoco)がコラボレーション



“enoco” によるプラットフォーム形成支援事業のスキーム構築



アイデアデザインコンペのスキーム構築



【コンペ採用理由】 アイデアを最大限引き出しやすい
 プロポーザルより提案にかかる負担が小さく、デザインの著作権の担保性が高い

【設計以降の工夫ポイント】 施工中のデザイン監修者としての関与

- ①最優秀提案者は、施工中も随時、製品開発設計や模型製作、修正設計、現地確認に関与
 ⇒デザインの実現性を高めるために重要
- ②地域との定例会議のほか、ワークショップや実証実験にも参加
 ⇒現場の変化に伴う地域住民の心情の変化に配慮
 模型・図面・CG製作を駆使しながら、対話によりさらなる合意形成を進めた

コンペ実施前のワークショップ

01 木津川遊歩道現地見学会

木津川遊歩道整備事業 ニュースレター

地域のみなさんにご意見をいただきながら、新しくできる遊歩道を整備していくため、5月より意見交換会が実施されます。それに先立ち、4月21日に現地視察会を行いました。

日時：2012年4月21日（土）13:30～15:30

場所：立売場地区（湖東）

江之子島文化芸術創造センター（意見交換会）

参加人数：現地見学11名 / 意見交換会9名

当日のスケジュール

現地見学

13:30 あいさつ、事業概要説明

13:45 現地見学

意見交換会

14:25 あいさつ（木津川検討委員会 泉 英明

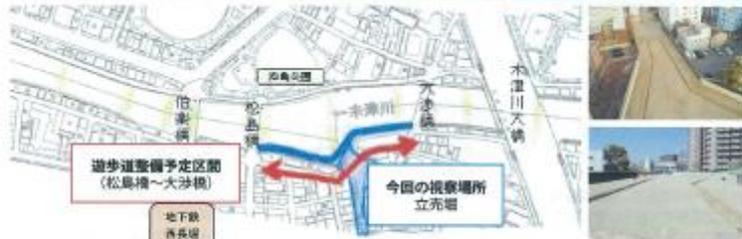
14:30 意見交換会

15:20 江之子島文化芸術創造センター館内案内

事業概要

木津川遊歩道整備事業とは

木津川の湖東地区立売場～和和地区の遊歩道を整備する事業です。今回はそのうち、松島橋～大津橋区間を整備予定としています。将来、この区間の利用者となることが想定される地域住民のみなさんに、整備前から広く意見を聞き、地域のニーズにあった空間づくりを目指します。



現地見学会



遊歩道に隣接し、一体的な利用が期待されている立売場の埋め立て地を見学しました。立売場地区の整備状況や遊歩道整備事業の経緯についての説明の後、実際に現地を歩きました。

みなさん、普段は対岸や建物の上層からご覧になっていた場所を実際に周って見て、「あそこはこんな風に使えそう」「この場所はどうなったらいいな」など、今後の空間整備や活用のイメージについて意見が飛び交いました。

意見交換会

あいさつ



木津川検討委員会
泉 英明 氏

今日はお集まり頂きありがとうございます。遊歩道などの公共空間を整備する際、行政が土木の専門家に発注し、全国一律の個性のない空間になりがちです。しかし、今回の木津川遊歩道整備は、全国にもめずらしい仕組みで、計画・設計前の段階から、地域住民の方々に使いたい方に関する意見をお聞きし、また外部の多くのアイデアも求め、安全は確保しつつこの地域ならではの遊歩道空間を実現しようという取り組みです。地域に愛される遊歩道にするためにも、地域のことを良く知るみなさんから、地域の魅力や課題、遊歩道空間をどのように活用してみたいかなど、多くの意見を頂きたいと考えています。そして頂いたご意見は、遊歩道の計画・設計にも引き継いでいく予定です。



「他己紹介」で感想を共有し、お互いを知り合う

意見交換会

事例紹介



studio-L
山崎 亮 氏

次に、今回の意見交換会の進行を行っている、studio-Lの山崎氏より、全国の公共空間の事例紹介のお話がありました。廃線跡地を遊歩道空間として活用した事例として、ニューヨークのハイライン空中公園と横浜市の東横線跡地活用事業を、市民とともに駅空間をつくりだす事例として延岡市駅前整備事業を紹介頂きました。遊歩道空間整備では特に、「健康（歩きたくなる）」「環境（景観や緑が美しい）」「交流（地域の交流の場である）」が重要なキーワードであるとの話がありました。



地域の魅力と課題、遊歩道空間の将来像を共有する

最後に、2グループにわかれて上記のテーマについて話し合いました。

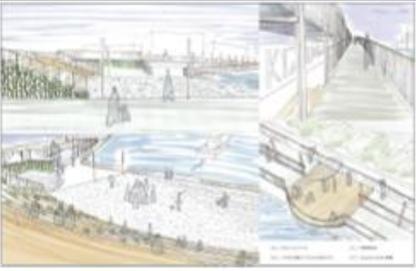
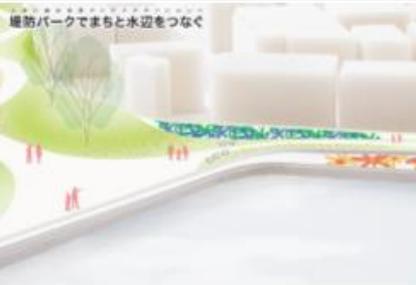
まちづくりやコミュニケーションデザイン等の専門家によるサポートをいただき遊歩空間が要るか要らないかの根本的な議論からスタート地域の機運を高め、コンペで求める条件も整理した

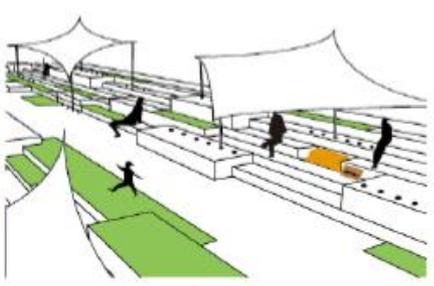
アイデアデザインコンペの審査委員

審査委員（敬称略 50音順、当時の所属）

- ・ 嘉名 光市（大阪市立大学大学院 工学研究科 都市専攻准教授）
- ・ 忽那 裕樹（株式会社E-DESIGN代表取締役）
- ・ 久保田 善明（京都大学経営管理大学院 准教授）
- ・ 篠原 修（東京大学名誉教授）
- ・ 芹沢 高志（アート・プロデューサー、P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター）
- ・ 曾我部 昌史（建築家、神奈川大学教授、みかんぐみ）

コンペ1次審査 2012.10.30 40組 ⇒ 5組 (書類審査)

応募者氏名 【応募者所在地】	作品名 (コンセプト等)	イメージ画像
伊藤 聡宏 【東京都】	「起伏のある遊歩道」、「橋のための橋」、「活動の広場」 木津川地域に昔から住まわれている方々、新しく移ってこられた方々、大阪市外府外から訪れる方々、そうした異なった時間や場所を経た人たちが一同に集まれる遊歩道空間を目指します。この遊歩空間が橋となり架橋となり、新旧を共に内包した未来の木津川川岸を皆で共に育てている活動空間として機能すべくデザインします。治水した川沿いでありながら、どこか自然のなかを流れる川沿いを歩くような、訪れる人たちの気持ちを楽しませる遊歩道空間をデザインします。	
一級建築士事務所設計室 渡瀬正記+永吉歩 【東京都】	堤防パークでまちと水辺をつなぐ まちと水辺を隔てまちを水害から守る堤防は、まちの地盤より高く、まちからも川からもよく見えます。逆に、堤防の上に立てば、まちも川もよく見えます。その堤防自体を公園化することで、まちと川につながり、まちと川をつなぐ新しい水辺の場所をつくります。	
一級建築士事務所 ofa 小原賢一+深川礼子 【兵庫県】	キツミスロープテラス ～街と人と川が歴史と自然でつながる場所～ 木質材と緑を連携するキツミのシステムで作る遊歩空間には、自由な断面を活かして様々な遊歩空間を設け、訪れる人がそれぞれ思い通りに過ごせる大きなテラスのような場所を作ります。遊歩空間は川辺から街へ、対岸へ、緑と視線を繋ぐことで、かつての村木茂が連なった立売地の記憶と新しい場所が生み出す街の未来のイメージを伝えます。	

Ryoko lwase 【東京都】	<u>だんだんばだけでハマベ茶つくる</u> ～立売地のマーケットプレイス～ 対象敷地の歪んだ形状は江戸時代にそこにあった「村木浜」の遺影である。かつて開削されていた立売地と自開地川と木津川とが合流する場所、そこでは縁田からの物資の運搬が行われたため、市場が開かれる賑わいの空間であった。見知らぬ商人と出会い、仲間と井戸端会議をし、時折川の舟橋に依る、水の興さを養え、夕暮れ時には己の人生と対峙する空間でもあった。時代の要請による地川の埋め立てや、防災堤により整形された川の橋脚によって、人々は肉体的にも精神的にも川辺から隔離されている。近年はマンションの連立と核家族の増加によりかつての隣近所的なコミュニケーションの存在も忘れ去られつつある。 本提案は、浜辺の地形であり、畑や花壇であり、市場の隣接地であり、都市へのアクセスであり、ベンチでもある「だんだんばだけ」をつくることで、現代に生きた「浜」をとりもどすことである。川辺に生きる住民のための空間と風景を創出する。	
清水 泰博 【東京都】	木津川・遊歩空間の全体コンセプトの「歴史性と未来性の融合」「祝祭的コミュニケーション」「安らぎのある親水空間」といった要素を、ただ全体に広げるのではなく、それぞれの場所に相応しい要素を当てはめていくように計画していくべきかと思われる。その場合場所によっては全ての要素が盛り込めることも出てくる。	

最優秀提案（コンペ2次審査 2013. 2. 1 公開プレゼンテーション）



プランタイトル：『だんだんばたけでハマベをつくる—立売堀のマーケットプレイス—』

提案者：Ryoko Iwase（岩瀬 諒子 氏）

[選定理由]

「浜」をキーワードに、水辺が豊かな交歓の場であった大阪の歴史性をふまえつつ、気候・気象条件も丁寧に分析。それらを柔らかいデザインに結実させた点が大きく評価された。また、人と人を結びつける活動を誘発する工夫が随所に凝らされ、今後の地域の交流拠点としての可能性を大きく期待させるものである。

コンペ実施後のワークショップ

トークセッション

デザイン案の紹介 建築家 岩瀬穂子氏

提案したデザインコンセプトはだんだんばたけでハマをつくる。防犯壁をだんだんばたけの裏からランドスケープに置き換え、花壇や雑草、休憩のためのベンチ、音楽のステージなど、出来る限り多様な利用ができる場所となるよう心がけています。将来この木津川遊歩空間を中心に人とまちと自然がいろいろな関係性をもつてつながり、そこから話題が展開して笑顔があふれる場所になりたいと考えています。



建築家、新垣順丸、京都大学工学部卒業、EMUN Architects (スイス、チュリッヒ) 勤務、同大学大学院修士課程修了ののち、阪神宮崎建築事務所を設立。2013年、岩瀬穂子設計事務所を設立。現 鹿嶋建設大学工学部ラドヴィッチ研究室テクニカルアシスタント

水辺の使いこなし方 審判かもめ船長 吉崎かおり氏

大阪という都市の中心部には、風が吹けばよくて景色のいい「水辺」が存在します。しかし、「川に近づきにくい」「川が使い方がわかりにくい」「車いすの人が多く」といった問題があり、あまり利用されていないのが現状です。水辺をもっとたくさんの方が利用できるような仕組みづくりや、快適に利用するためのルールづくりが必要です。誰もが気軽に利用できる、かつての大阪の「水辺」をとりもどし、その魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいのです。



審判かもめ船長、大阪府生まれ、工業高校卒業、建築設計事務所 アートアンドクラフトに入社。大阪名品喫茶大阪の社長、不登壇リノベーションのコーディネーターを務め2012年に3人組団体のための活動、2009-2011年にNPO水辺のまち再生プロジェクト代表を務める。

農のある暮らし NPO法人 Co.to.hana 代表 西川亮氏

北加賀郡には「産業の流出」「空き家増加」「少子高齢化」という問題があります。そこで、遊歩地を使った農園プロジェクト「みんなのうらん」をはじめました。専門家・アーティスト・市民が一緒に、ゼロから農園をつくっていくのです。みんなが話し合ってきたり、土や農具作りをしていきました。今では野菜も育ち、収穫もできるようになりました。都市で農をすることによって市民の健康や暮らしにつながり、新しい交流が生まれています。



NPO法人 Co.to.hana 代表、社会の貧困や地域の課題に對して、デザインが持つ「人に感動を与える力」、「ムーブメントを起こす力」、「人を幸せにする力」で解決を目指す活動。博覧館Studio+主催「震災+design」プロジェクト最終発表を支援。

ディスカッション

その他のディスカッションでは、遊歩空間や川を使う人が増えることで生じる、不安や問題を解決するための取り組みについて話し合いました。参加者から「水辺利用をする人のマナーが心配」との意見もあり、遊歩を定めることで人の滞留のしやすさに変化を認め、水を播くことによる住居への視線の軽減など、ハード面からの工夫についての説明がありました。また、河川利用者スピード制限を認めることや、新しい観音を作るなど、水辺の使い方に応じたルール作りが重要だとその意見が交わされました。



参加者の声

いろんな可能性をもった空間だと感じました。/他の地域で生かせるような取り組みを期待しています。理想だけでなく、現実でも物事を進めるのではなく、反対意見や問題点をしっかり解決して作り上げなければならぬ



「北加賀郡みんなのうらん」のケイタリング

これらの活動の参考となるような、遊歩地を使った農園づくりに取り組んでいる「北加賀郡みんなのうらん」。そんな農園で収穫したジジジャーエールとショウガ湯、野菜を使った甘さ控えめのケーキ・サレとゴーヤのピレチョコレートを絡めたものが提供されました。ケーキ・サレの材料として使われた「ゴールドピーマン」は珍しい品種のものでそうです。どれも調味料を極力使わず、野菜本来の味がいかされていました。



ワークショップ

ダンボール紙でだんだんをつくる

ダンボール紙をつかって実寸大の「だんだん（デザイン案の形状）」の模型を参加者のみなさんとスタッフが一緒になって作りました。その後、西大阪治水の川上さんから写真などをつかって、現場の距離感などを説明いただき、空間のイメージをふくらませました。



だんだんの使い方を考える

最後に、作成した実寸大のだんだんを囲んで、使い方を話し合いました。空間のイメージが膨らむと、より使いやすい空間づくりのための意見やいろいろな活用の仕方のアイデアが生まれます。当日出た意見やアイデアの一部をここでご紹介いたします。



遊歩空間の可能性

地域の魅力の向上

- ・地域の財産にしたい！
- ・土地の価値が上がる

やってみたいこと

- ・散歩、ジョギング
- ・川辺のスケッチ、線にふれあう、魚釣り
- ・川を見ながらランチ、夏のビアガーデン
- ・校外学習のコース

検討が必要な課題

管理

- ・川にゴミが捨てられそう
- ・掃除が必要
- ・管理する人をあつめる、アドプト制度の利用
- ・雨だれなどの汚れ、落書きなどの対策

防犯

- ・24時間の開放空間になる？
- ・防犯カメラや照明の設置は？

＜アイデア＞
みんながゴミを捨てたくなくなるしかけのゴミ箱を設置してみたらどう？

これまでとこれからの流れ

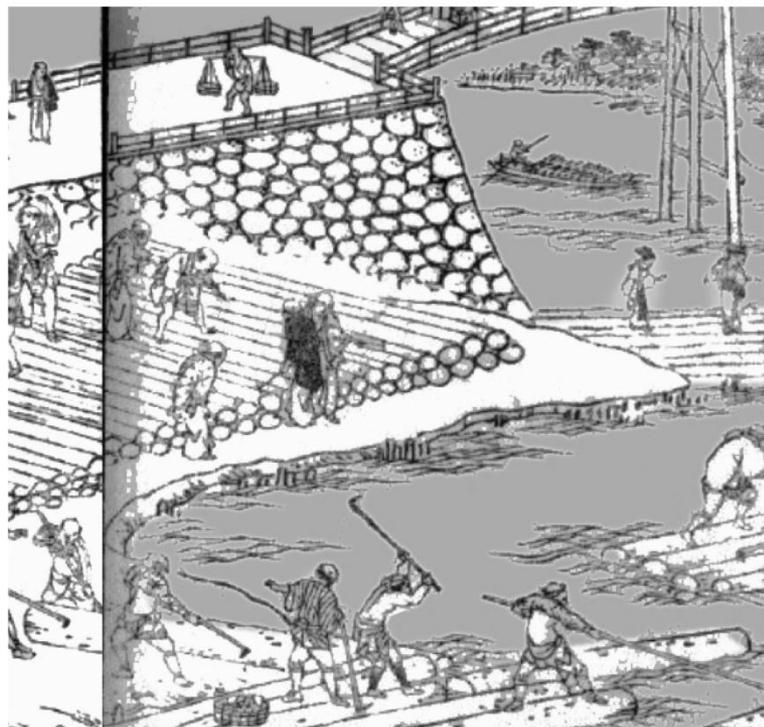
- 2012年4月21日 現地視察
対象地を実際に歩き、空間のイメージを膨らませました。
- 2012年5月12日 コンペ・プロポの要項をつくる①
地域をみつめ直し、新たな遊歩に期待することを話し合いました。
- 2012年6月16日 コンペ・プロポの要項をつくる②
遊歩空間の将来像を話し合いました。
- 2012年6月16日 デザイン案のお披露目
最優秀に選ばれた案をお披露目しました。
- 2013年4月20日 細かい設計条件を固める①
ダンボール紙で実寸大の模型（だんだん）をつくり、空間のイメージを膨らませました。
- 2013年6月2日 細かい設計条件を固める②
前回の意見を踏まえた、より使いやすい空間づくりについて考えます。
- 2013年8月以降 使い方運営方法を考える
木津川遊歩空間の使い方のアイデア、どのように運営していくかを話し合っていきます。

2014年以降 工事開始

2015年以降 使用開始

地域の方々と空間の将来像についての意見交換や、1/1模型による体験を通じた対話などを行うことで機運と愛着を高め、その後の設計・施工や利活用の展開へとつなげた。使いこなしの専門家も参加。

江戸時代の付近のようす



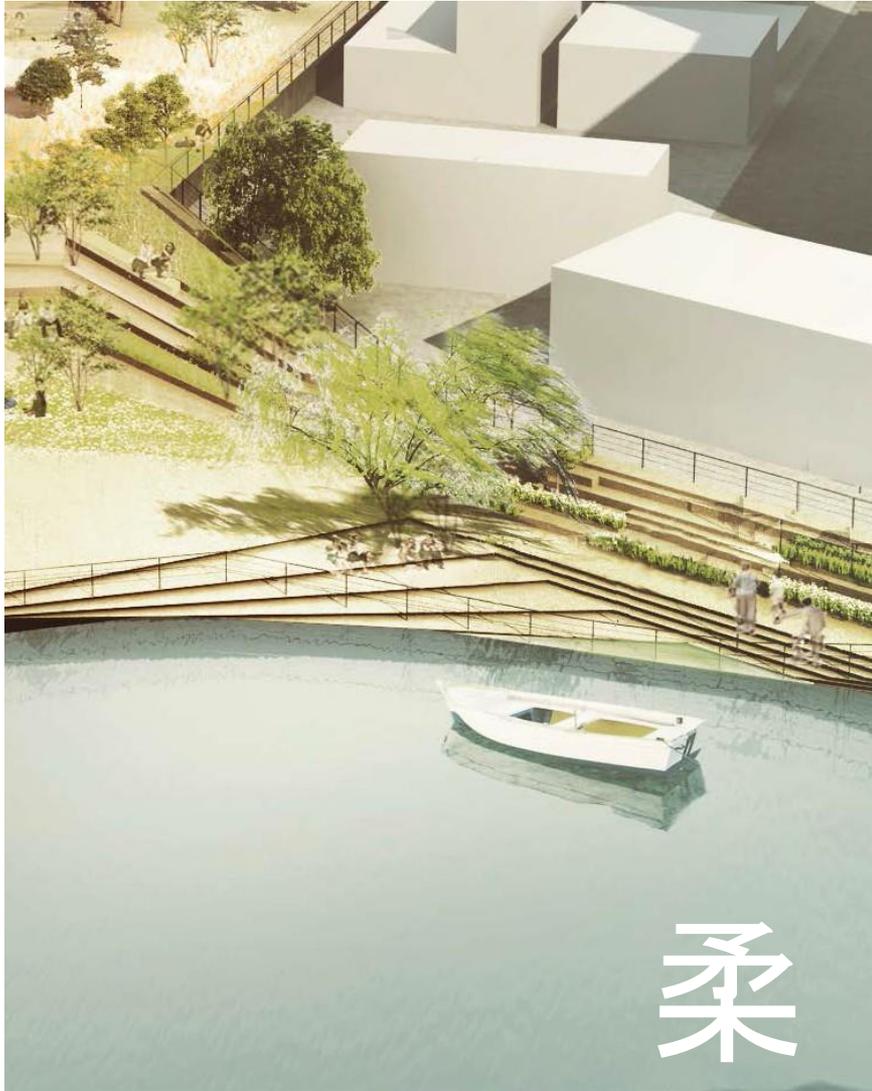
柔 ○なだらかな地形や境界
○豊かな肌理



交 ○職住連帯的な人のつながり
○材木浜の活気

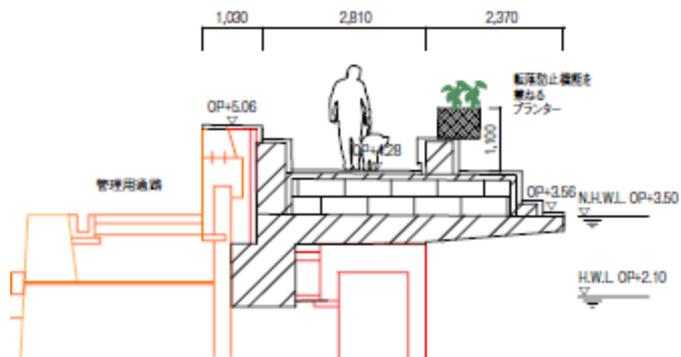
かつて大阪の水辺は“浜”と呼ばれ、
大阪城築城を機に付近は材木浜としてにぎわった

デザインで目指すもの

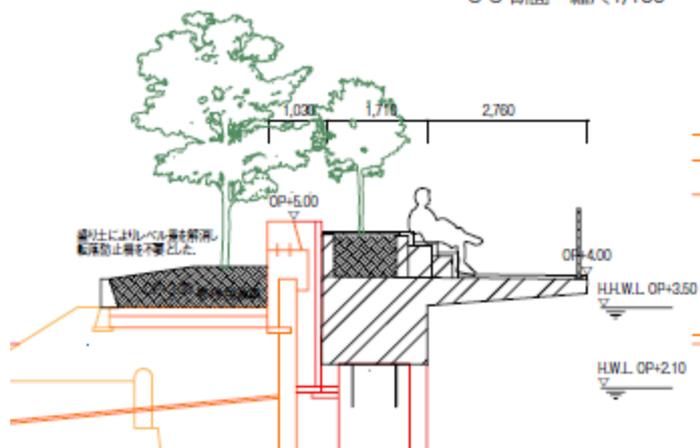


現代に浜をとりもどす ⇒ 柔：ダンダン状にまちと水辺を柔らかくつなぐ
交：多様な仕掛けで人の交流と利活用を促す

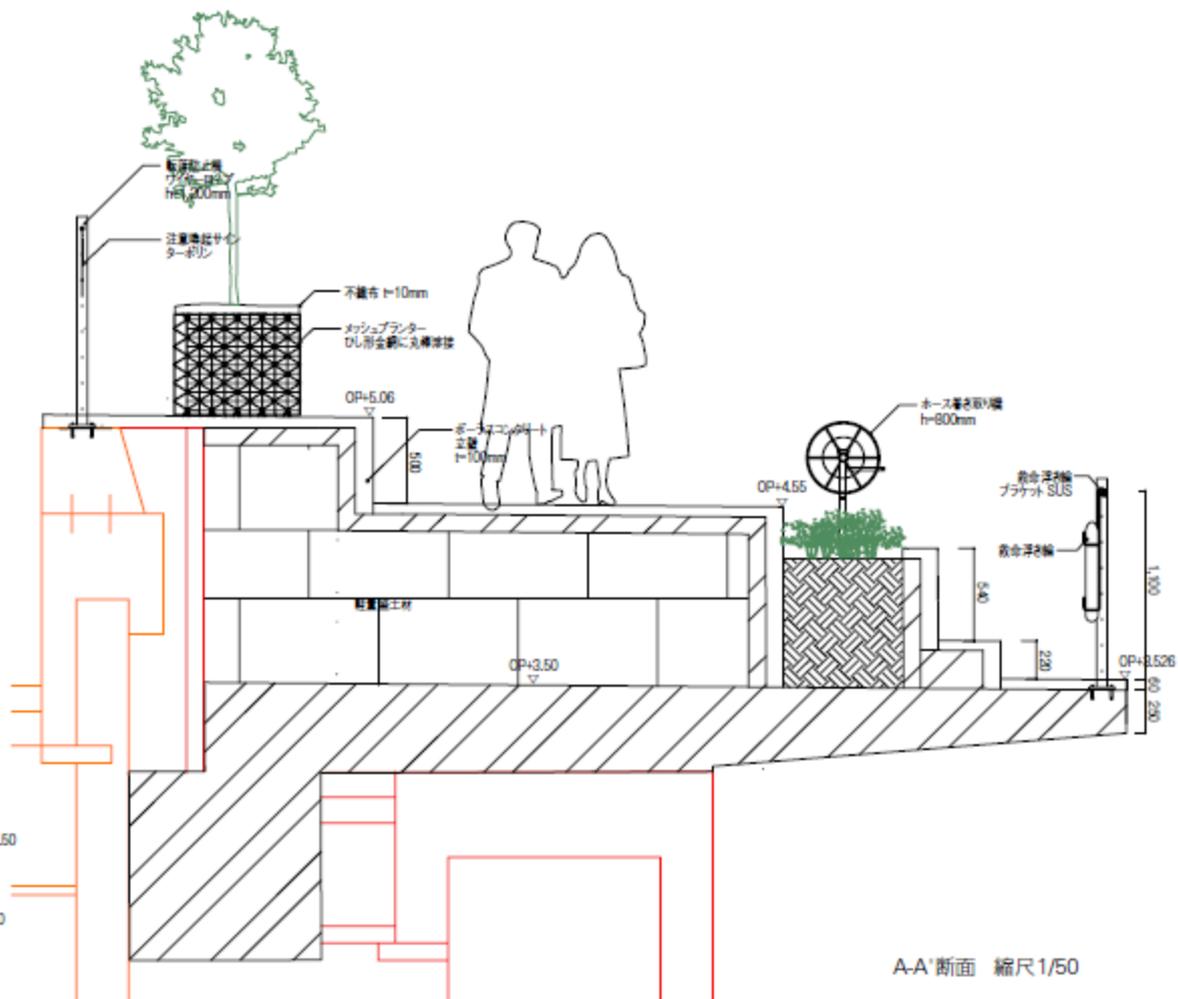
横断面図



C-C'断面 縮尺1/150



B-B'断面 縮尺1/150



A-A'断面 縮尺1/50

平面図



デザインパース



提供: 岩瀬諒子設計事務所

土木スケールの中に建築スケールをインプットして、距離や動線、居場所などをコントロールすることで多様な出来事を誘発 2013.2.1

デザインパース

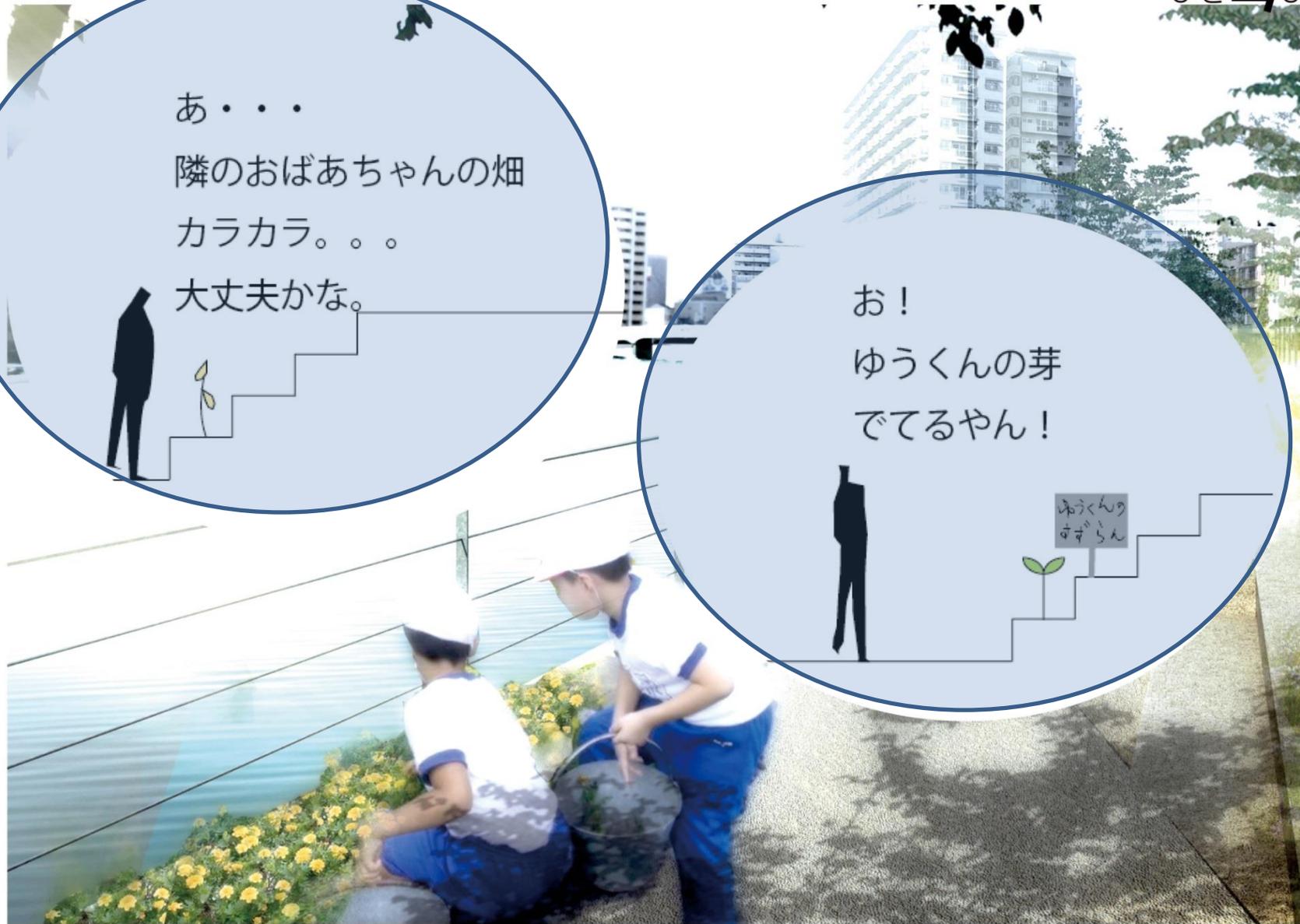
だんだんばだけでハマベをつくる、立売堀のマーケットプレイス

ひと  ひと

あ・・・
隣のおばあちゃんの畑
カラカラ。。。
大丈夫かな。

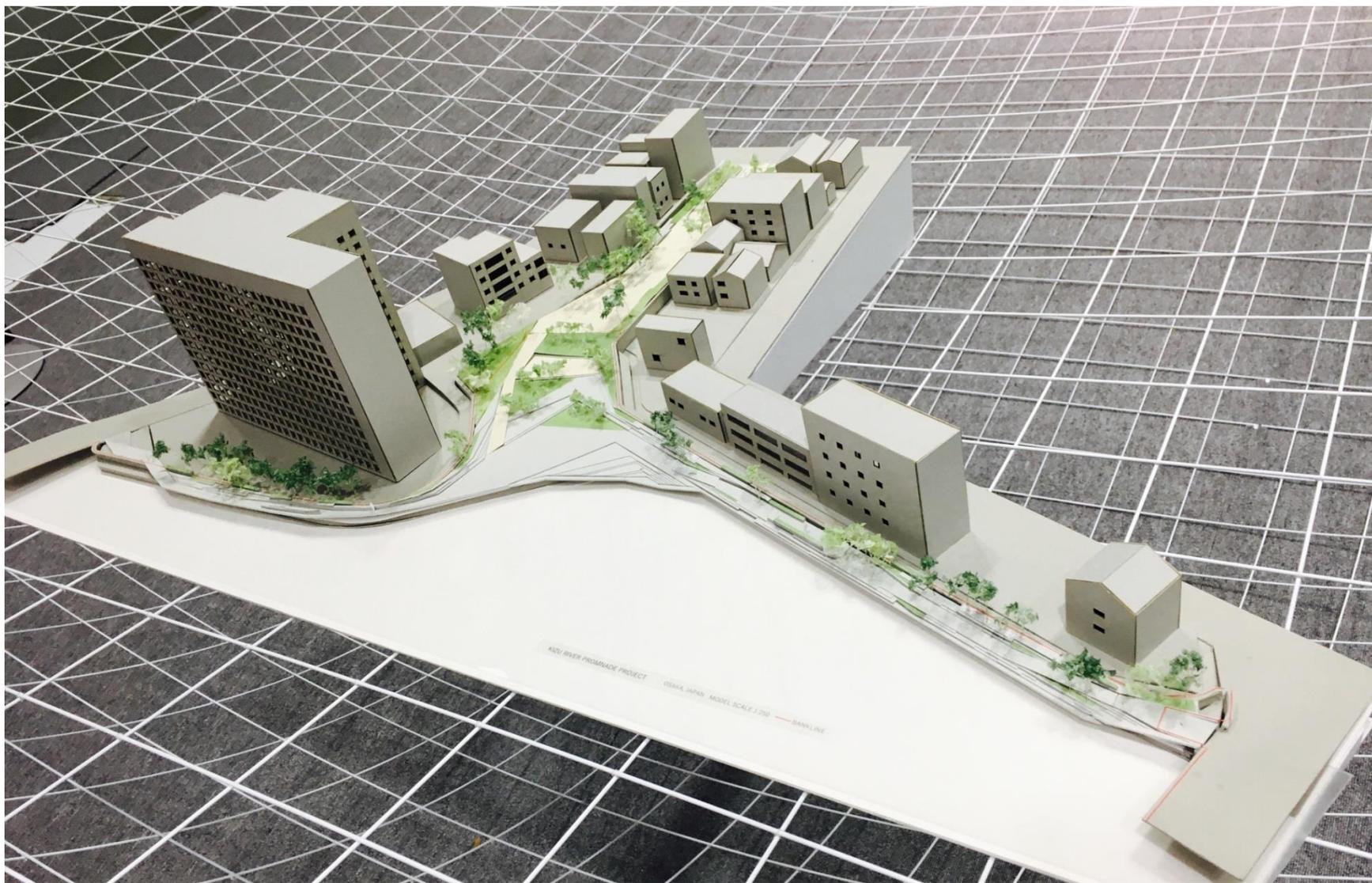


お！
ゆうくんの芽
でてるやん！



提供：岩瀬諒子設計事務所

模型



提供：岩瀬諒子設計事務所



施工中の写真



護岸から張り出すスラブで遊歩道部分を拡幅

施工中の写真



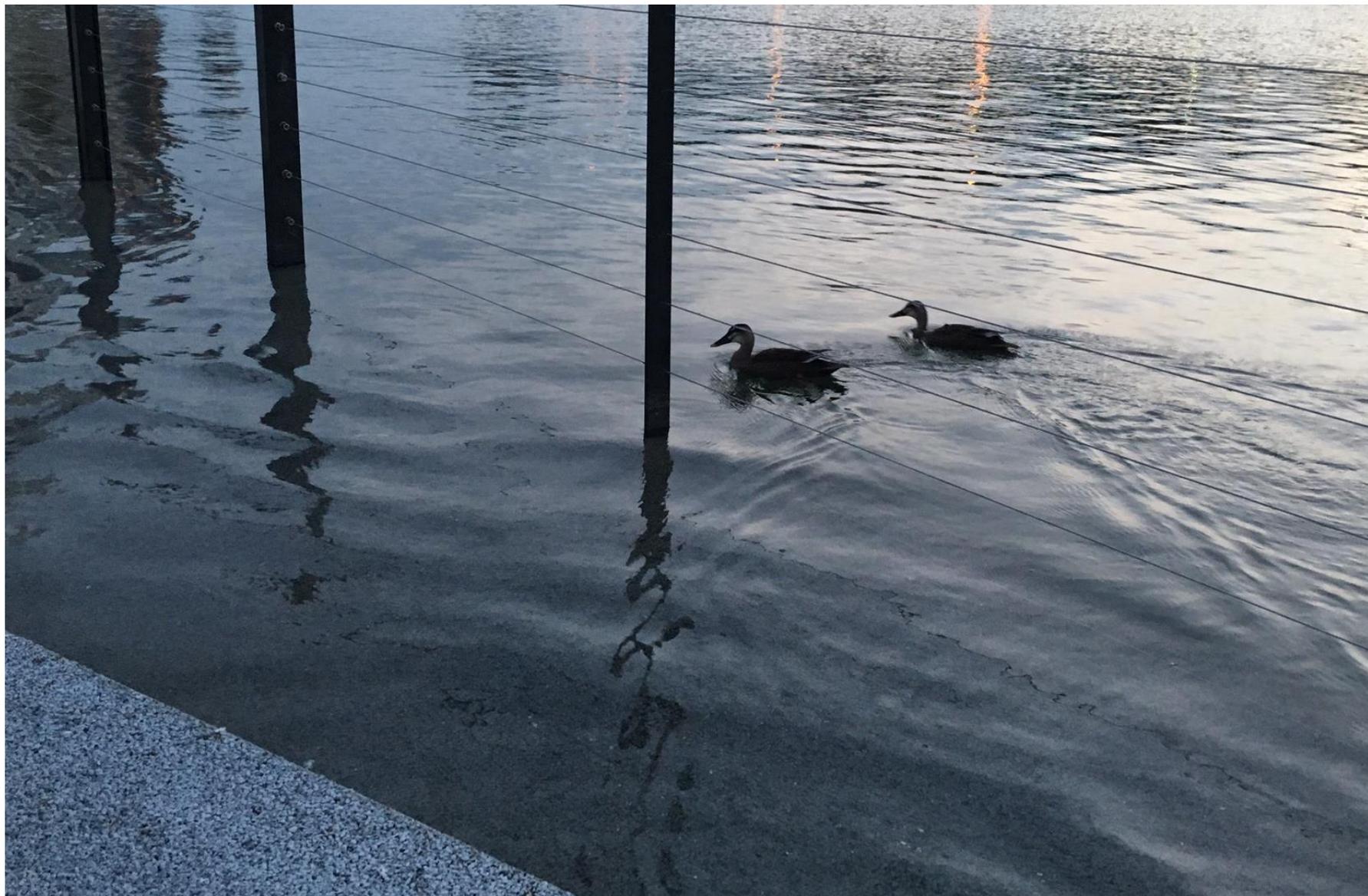
親水護岸部分は既設護岸より低くするため前面に拡幅

施工中の写真



親水護岸は潮位が高いと少し水が入ることで自然のリズムを体感⇒防災意識にもつながる

完成後の写真



親水護岸は潮位が高いときには水鳥も近くに感じることができる

完成後の写真



撮影: Erieta Attali (in N.Y)
協力: 佐藤渡辺 近畿支店

遊歩道部分はポーラスコンクリートを積層(オリジナル、汎用可)
地形の中に人の居場所をつくった。速乾性とやわらかな印象が特徴で、ベンチのように使える。

広場部分の平面図



緑とポーラスと土色舗装のコントラストの調和

施工中の写真



広場部分の舗装は幅員が広いため土のような印象を目指した。
また、合流式下水道への流出は環境負荷も高め、都市計画変更も要することから、透水性能のある舗装とし、エントランスに貯留槽とトレンチを設けることで河川敷地内で処理できるようにした。
(※写真は舗装前の土を敷きならした状況)

インターロッキングブロックの製品開発



協力:太平洋プレコン工業 大阪支店

土の風合いの演出と透水等の機能確保の並立へのチャレンジ

インターロッキングブロックの製品開発



協力:太平洋プレコン工業 大阪支店

カラー、素材感、粒度、形状などを現地でチェック

インターロッキングブロックの設置状況



協力:太平洋プレコン工業 大阪支店

やわらかなニットの印象をあたえるデザイン(オリジナル、汎用可)

インターロッキングブロックの設置状況



協力:太平洋プレコン工業 大阪支店

植栽周りなど、ブロックの組み方も精緻に設計し、現地で確認

モニュメントと排水機能の確保



施工前



施工中

モニュメントと排水機能の確保



昔の防潮堤
OP+3.5m程度
と現在より低い

両サイドの低い壁は工事中に発掘された旧防潮堤で治水対策の遺構とした。
その際、壁面を見せるために前面を掘削し雨水貯留槽としてトレンチで河川側へ排水している。

ユニバーサルゲートの開発



協力: 帝金

車いすの通行性の高さと、エントランスとしてウェルカム感のある、やわらかな印象でデザイン
(オリジナル、汎用可)

ユニバーサルゲートの開発



チェーンは複数タイプの実証実験の結果、雨樋用のものを採用
⇒やわらかな印象につながる

車いすより幅員が広い近隣の保育園のバギーなどもチェーンの取付けをシャックルにしている箇所では通行可能

協力: 帝金

転落防止柵の開発



協力：東京製網

水辺との距離感を感じさせない透明性とやわらかな印象、転落対策性能の並立

転落防止柵の開発



協力:東京製綱

下流側の遊歩道を松島橋から望む。風景としてのダンダンの造形も良く見える

植栽プランターのデザイン



協力:小岩金網

プランターは金網&不織布でデザイン(オリジナル、汎用可)
一部は転落防止機能も有する。地域の植栽活動の舞台にもなる

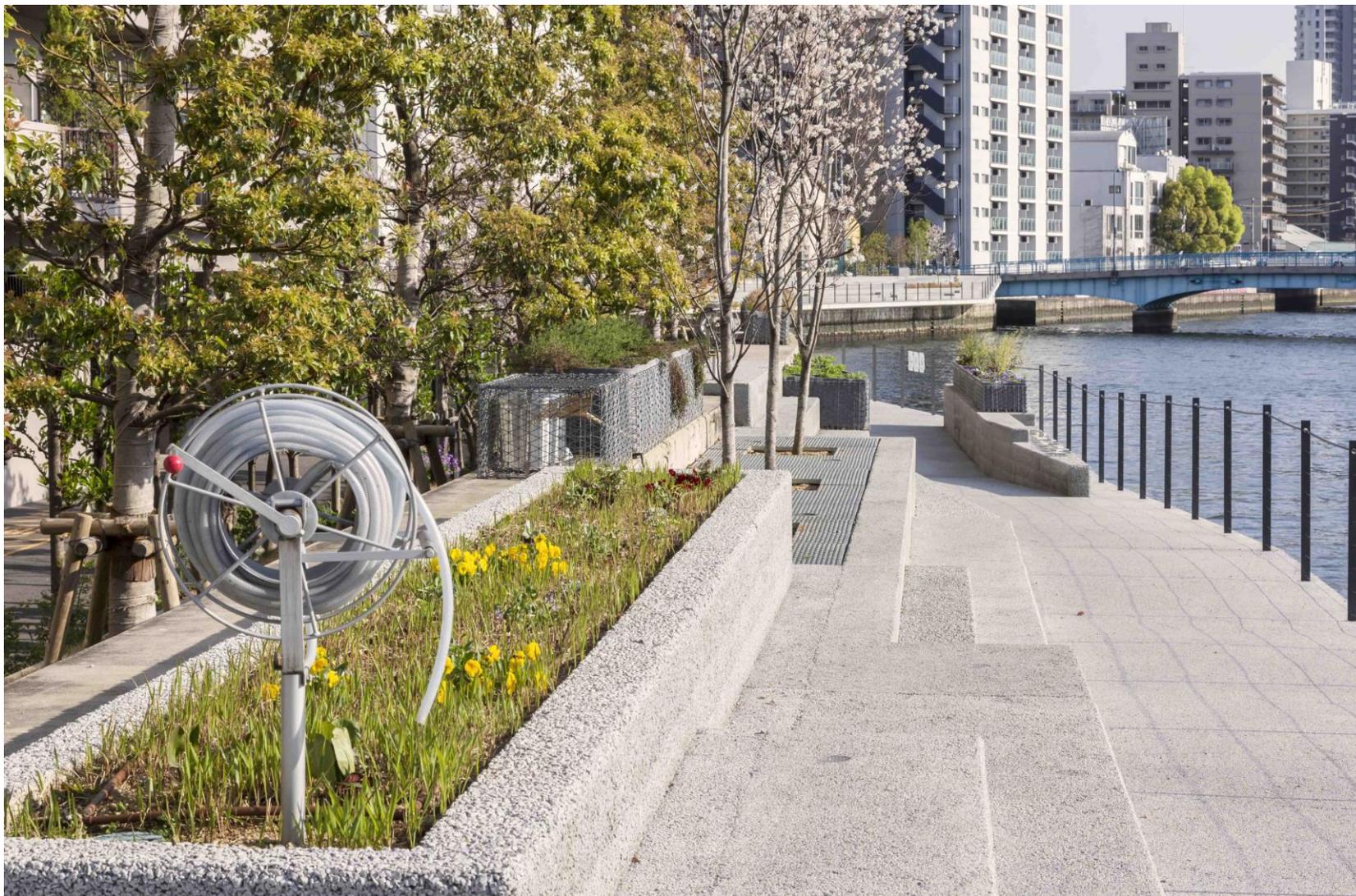
道具入れのデザイン



協力:小岩金網

人が手入れしている気配を感じる道具入れ ⇒ マナー向上 (オリジナル、汎用可)

ホースリールのデザイン



協力:大阪パイプ加工
人が手入れしている気配を感じるホースリール ⇒ マナー向上 (オリジナル、汎用可)

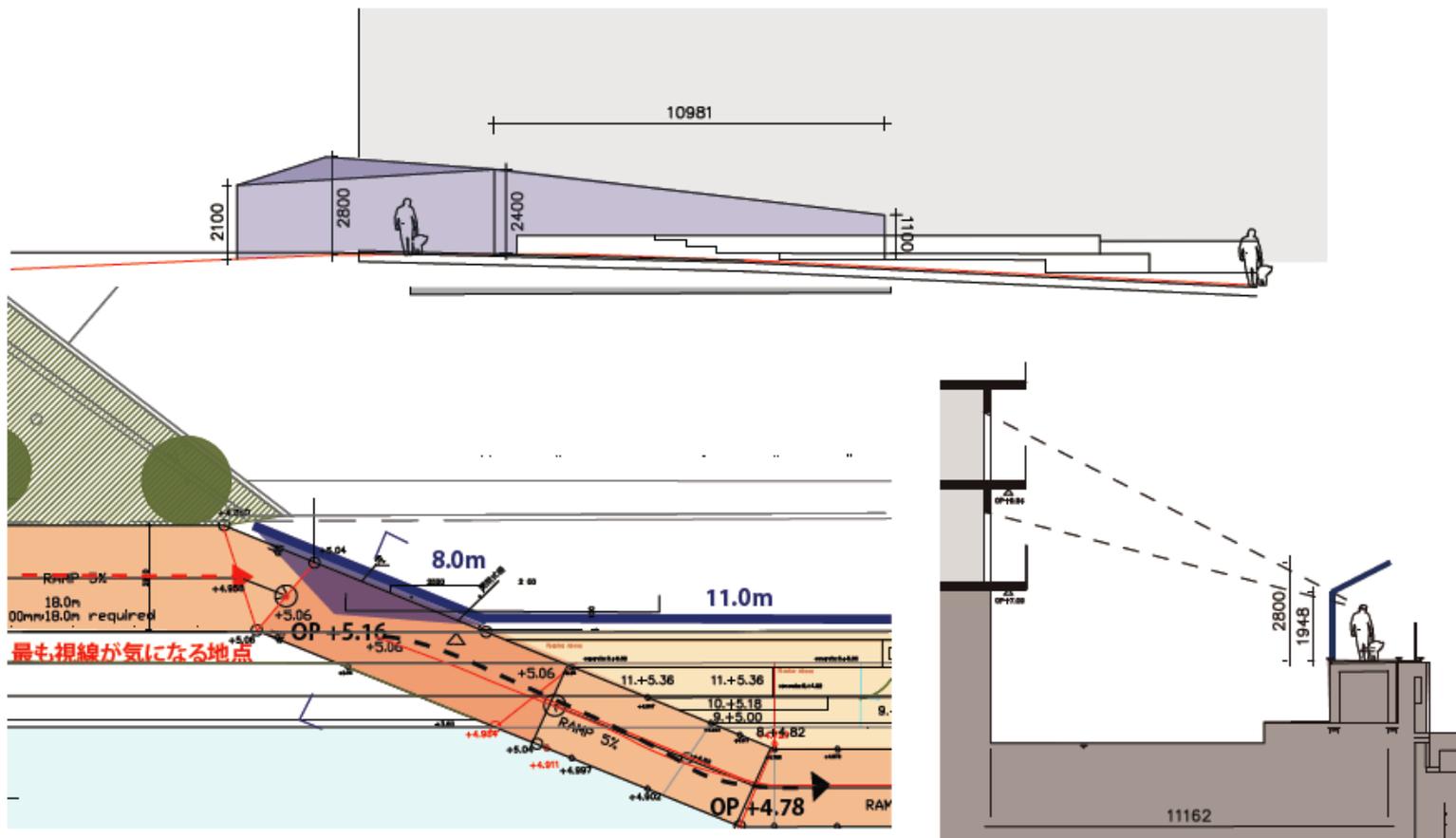
設計プロセスの事例

パーゴラの形状：

前回の打ち合わせ時に、目隠し効果のための小さな軒のような形状と、擁壁の幅について検討した。

POINT 1：視線の気になりやすい地点（OP+5.16）にパーゴラのような軒下空間をつくり、歩行者の視線が朝日プラザがわに抜けにくくするデザイン

Kizu river water front



RYOKOIWASE 岩瀬隼子設計事務所
2015.06.10

遊歩道からの視線によるプライバシー対策を求められた際のパーゴラ案の検討

設計プロセスの事例

各住戸からの見え



各お部屋を訪問させていただき川側を撮影した写真をベースにCG検証したものを配布
パーゴラで水辺が見えなくなる部屋ができること、樹木による対策の効果と利点を説明

設計プロセスの事例



パーゴラを設置した場合の空間構成を実体験

設計プロセスの事例



施工中



施工後

防潮堤陸側の河川用地への盛土・高木植栽 & 川側のプランター植栽でカバーすることで合意

サインの開発



デザイン
監修

東京藝術大学
東京藝術大学

内山 耀一郎
デザイン科

教授 松下 計

愛称“トココダンダン”の決定

まちとみずとひとつをつなぐ
だんだんばたけの遊歩道

愛称募集!

2月10日17時まで

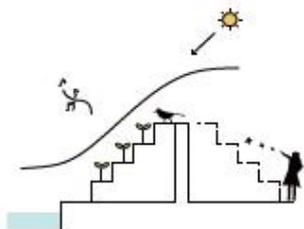
NICKNAME, PLEASE! 木津川遊歩空間 / 大阪府大阪市西区立売堀6丁目～新町四丁目 / 用途: 遊歩道 + 広場

大阪府では、水都大阪再生の取組の一環として、水辺の回遊性向上のため、一級河川木津川の松島橋から大沙橋の左岸側において木津川遊歩空間を整備しており、平成28年3月に遊歩道部分をオープンし、引き続き広場部分を含めた全面オープンに向けて整備を進めています。

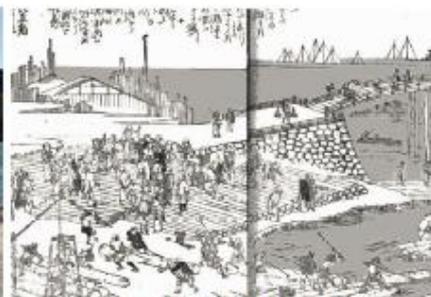
この事業では、大阪市西区において、貴重な親水性を有する同エリアを、新しいまちの資産として価値を高めていくため、景観性と地域による利活用を重視しながら、行政、地域、大阪府江之子島文化芸術創造センター、NPO団体、デザインコンペ最優秀者等が連携して事業を進めています。

平成29年3～4月の全面オープンに併せて、より地域住民に親しまれる場所となるよう、遊歩空間の「愛称」を募集いたします。

木津川遊歩空間の特徴



水辺を身近に感じられる場所です。



「立売堀 (いたちぼり)」は近世には材木浜とよばれる材木市場でした。



地域の人が花を植えたり、ヨガをしたり、いろいろな活動をしています



だんだんばたけのような形状が特徴です。



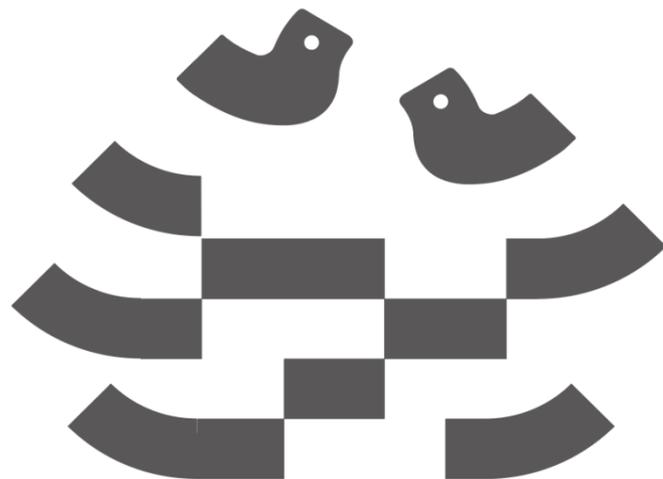
遊歩道前の水際にはカモがたくさん休みにきます。



ひな壇状の地形がまちと川をつなぎます。

公募により113件の中から選定。
小黒由実さん(東京都)の案をベースに決定

ロゴのデザイン



トコトコダンダン

tocotocodandan

デザイン

東京藝術大学 内山 耀一郎

監 修

東京藝術大学 デザイン科 教授 松下 計

名版のデザイン



下流側遊歩道、松島橋エントランスに設置

植栽のデザイン



協力：仲田種苗園

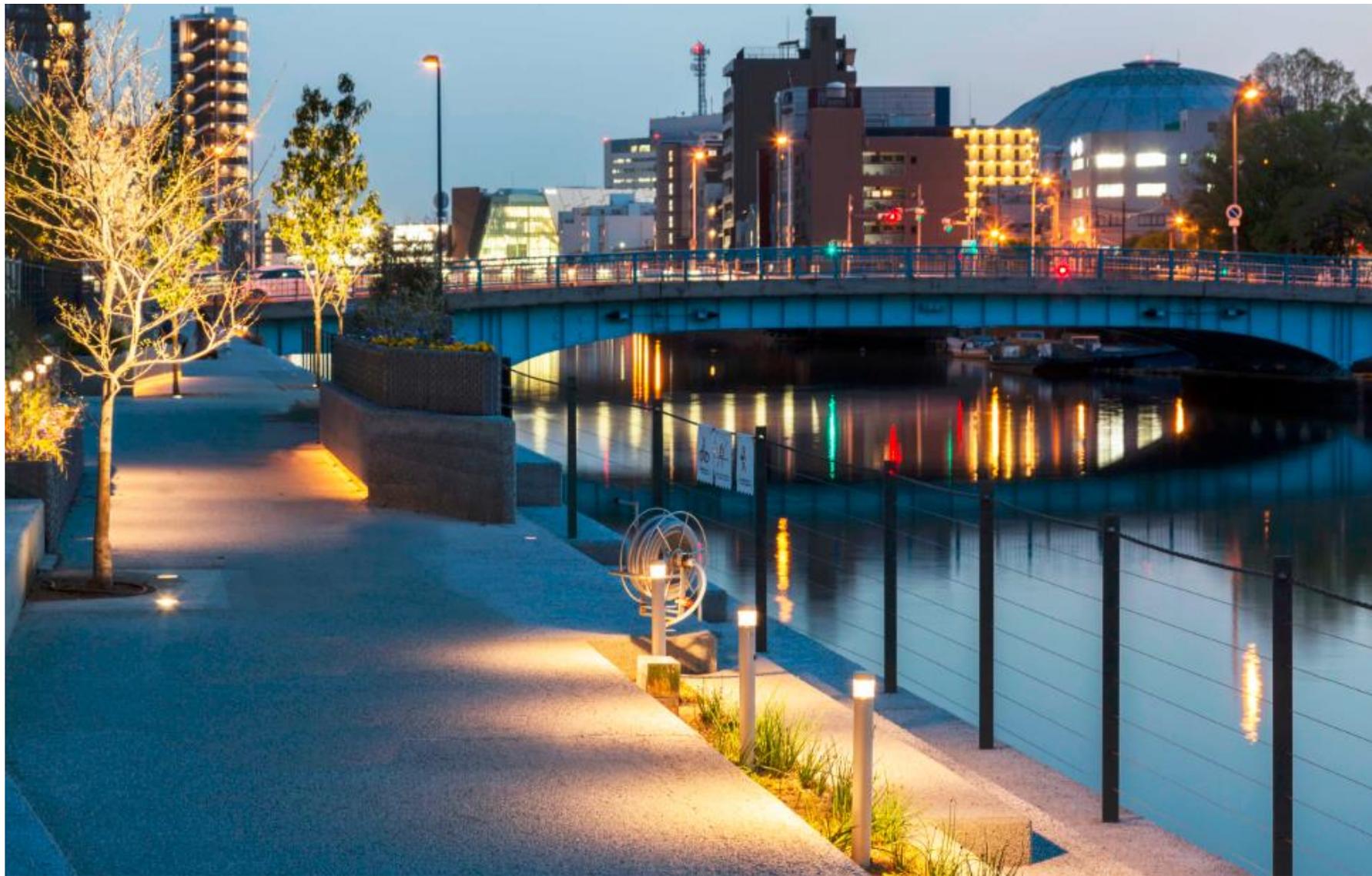
近畿中部に自生する野の花11種類(キキョウ、なでしこ、オニユリなど)を混合したマットで季節の草花を演出。バッタ、コオロギをはじめとする昆虫や野鳥などの生物も多くなった。

生物



都会では珍しくオニヤンマも発見

夜間景観のデザイン



夜間景観は間接照明で演出

協力:大光電機

完成写真



2017. 4 オープンセレモニー



2017. 4 オープンセレモニー







下流側の遊歩道

日経コンストラクション2016.8.22号 表紙 写真
撮影:生田 将人氏









地域による利活用のようす



ヨガイベント



ヨガイベント



植栽活動



植栽お手入れ活動



清掃活動



多様な居場所と使い方



多様な居場所と使い方



多様な居場所と使い方

地域による利活用のまとめ

2016より現在にかけて、地域協議会、住民、NPO法人、各種法人等による“トココダンダンの会”を結成し、月1回の緑化・清掃活動や、その他イベントを実施している。

今後はさらなる活性化に向けてエリアマネジメントを含めた地域活動との共働や周辺施設との連携などを検討中。

地域にとって貴重な親水空間であるトココダンダン、あらたな地域の資産として、さらなる利活用を進めていきたい。

周辺で起こりはじめたこと

物件詳細

RENT 水辺好きに捧ぐ、トコトコガンガン！



所在地	大阪市西区立売堀6-6-6
賃料	9万5000円
面積	60.73 平米
最寄り駅	地下鉄中央線・千日前線『阿波座駅』徒歩6分、地下鉄長堀鶴見緑地線『西長堀駅』徒歩7分

リノベーションだけじゃないんです。リバーサイドを歩ける遊歩道にも面しているんです。



バルコニーからの眺望は木津川と木津川遊歩空間

木の都大阪再生構想にもとづく木都再生事業の一環として整備された木津川遊歩空間。趣味的のように段差が多い形状だからなのか、公募で決まった愛称は「トコトコガンガン」だそうです。



左:LDK 右:和室

水辺を眺めるだけでなく、水辺を散歩したい！という方には絶好の立地のマンションです。

今回、紹介する部屋は4階なので川が近く感じるリバービューです。

わざわざバルコニーから身を乗り出さなくても和室に座っているだけでも川が見えます。

室内はごくごく普通の内装。水回りも最新の設備に入れ替わっている、という訳ではないですが清潔感はありません。

室内の内装よりも、水辺での暮らしが大切だと思う水辺好きの人にオススメです。

(ちゆら)

※分譲賃貸
※住居専用、ペット不可



[拡大画像]

ツイート Like 0 Share



左下: マンションのエントランスには公園があります



木津川遊歩空間 (愛称: トコトコガンガン)

敷金	~	礼金	25万円	運営構造	鉄骨鉄筋コンクリート造15階建
保証金	~	敷引を(解約引)	~	取引経緯	仲介
築年	1983年	共益費	15,000円	所在階	4階
情報登録日	2017.7.13				
設備	エレベーター、オートロック無(管理員日勤、防犯カメラ有)、洗濯機付便座、2口ガスコンロ設置可、ユニットバス(遠天無)、光ファイバー引込可(フレッツ光、eo光) ※洗濯機付便座は預置物につき買主は性能保証を負いません				
備考	*分譲賃貸 *駐輪場有(1台につき1,800円/半年 ※空を状況要確認) *バイク置場有(1台につき9,000円/半年 ※全長1,700mm程度×車幅500mm程度×重量100kg以下 ※空を状況要確認) *敷地内駐車場有(15,000円~/月 サイズ*空を状況要確認) *住居専用 *ペット不可 *賃貸保証委託契約必須 *指定火災保険必須(15,000円/2年)				

不動産の物件情報に掲載

#トコトコダンダン

#トコトコダンダン

#トコトコダンダン

投稿43件

人気投稿

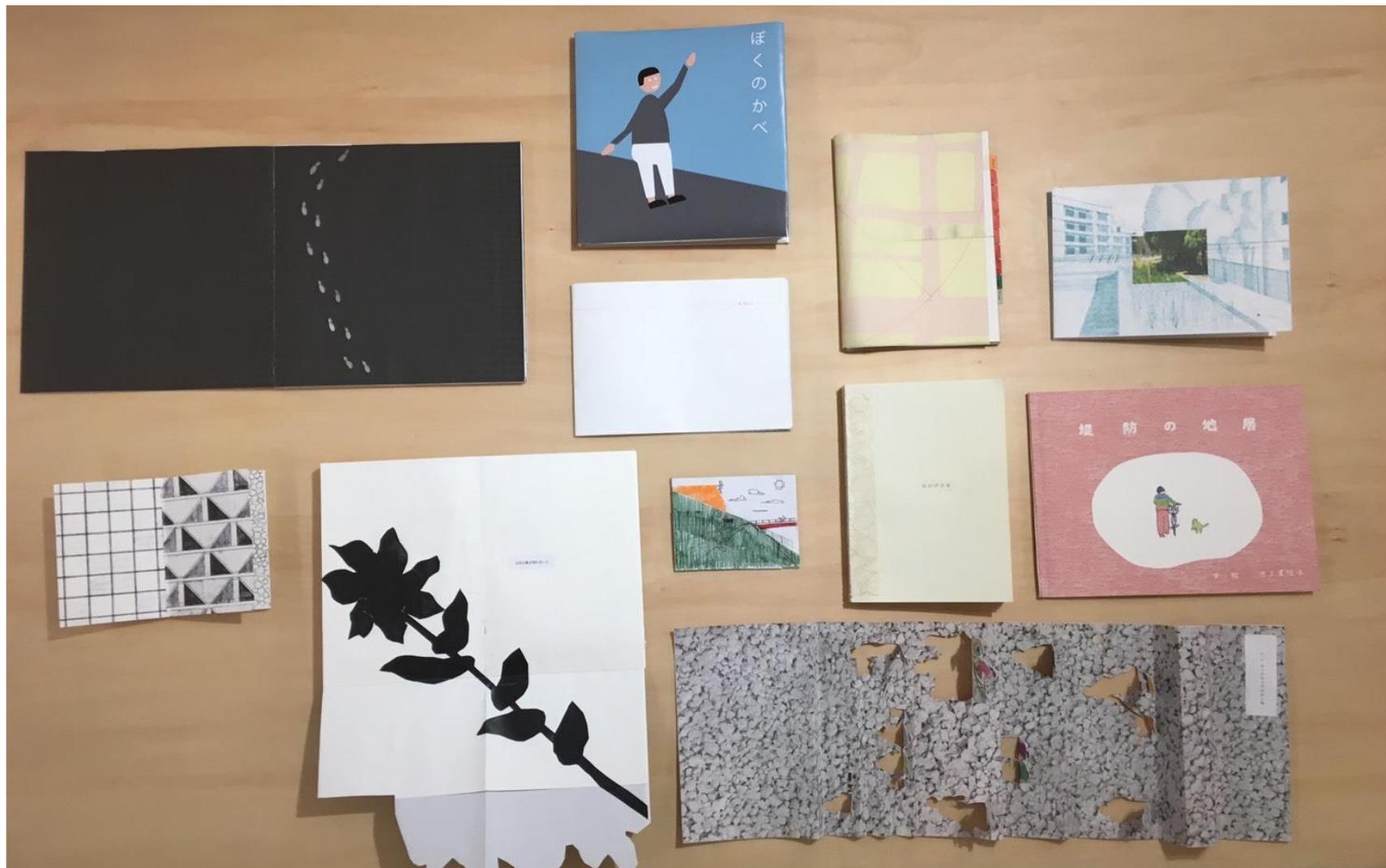


インスタでアップ



地域の方がマナー向上のため見回り隊を結成

絵本の製作



東京藝術大学 美術学部 建築科 中山英之研究室

絵本の製作

堤防の地層

<https://www.youtube.com/watch?v=FbnqcNz1Gal>

おおきさの、お空

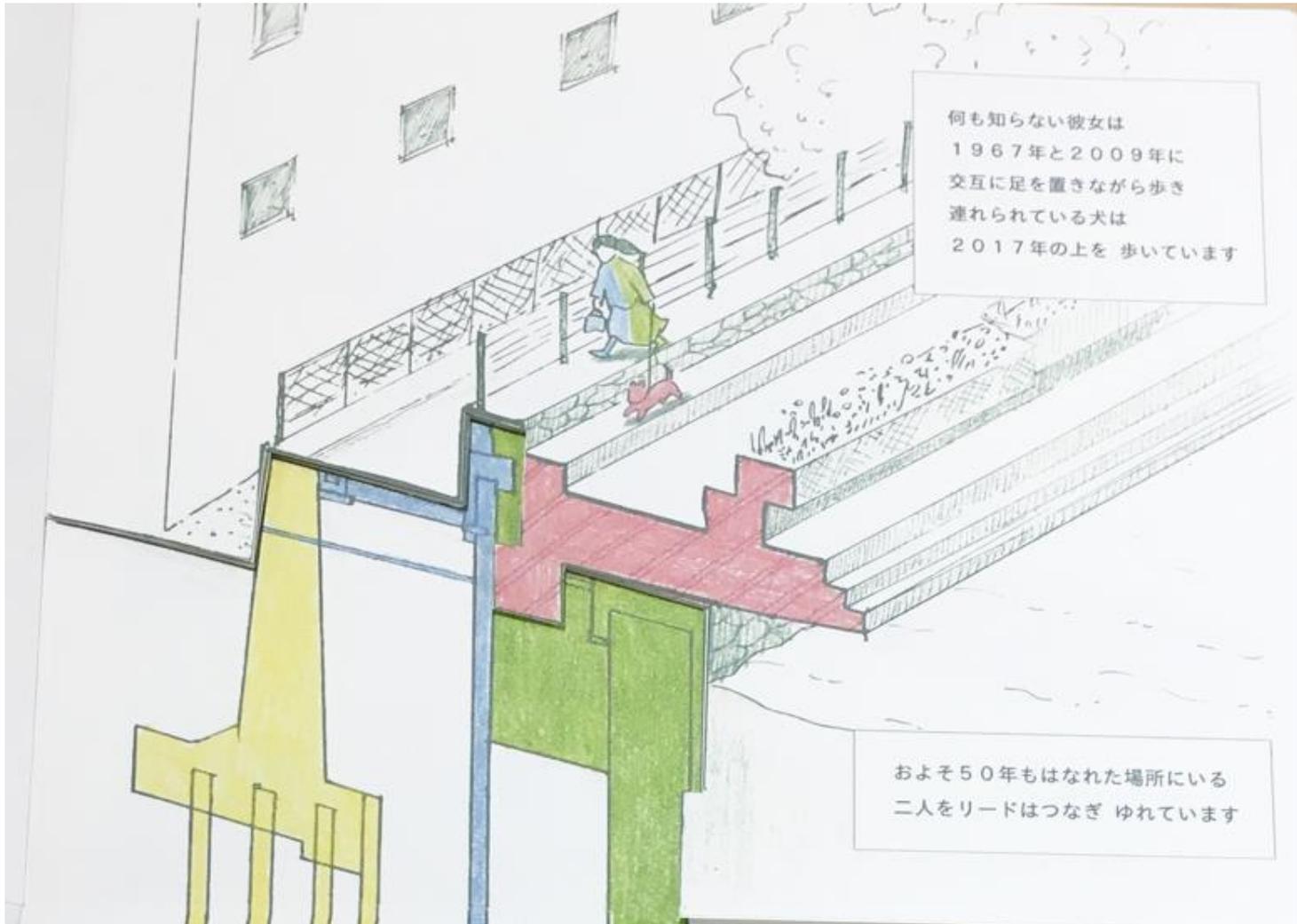
<https://www.youtube.com/watch?v=j36JzjSDyE>

ぼくのかべ

<https://www.youtube.com/watch?v=JkX8r7EATPI>

おかげさま

<https://www.youtube.com/watch?v=ExB2dFncL8>



メディア掲載情報

新建築 2015.7月号、2017.5月号

日経コンストラクション 2016.8月号、2017年5月号&Web版

COLOCAL 2016.02.16号

LANDSCAPE DESIGN 2016.8月号、2013.6月号

ソトコト 2016.8月号 (水辺のまちづくり特集)

建築雑誌 2016.2月号

産経新聞 大阪建設工業新聞 大阪日日新聞

30歳以下の若手建築家による建築展

enocoニューズレター、西区情報誌ニッシー

旭硝子 Glass Plaza Pro

H25近畿地方整備局研究発表会

ケーブルTV

まとめ

今回のチャレンジでは、以下の成果を上げることが出来た。

1) 都市インフラのあらたな可能性の提言

ハード・ソフト面に配慮しながら、地域に根差したプラットフォームやデザインコンペのスキームを構築したことで、地域の愛着やシビックプライドを高め、景観面で優れた豊かな水辺空間をつくることができた。このスキームを構築したことで、未来のまちづくりに新たな可能性を提言できたと考える。

2) 土木におけるデザインの結実

堤防により分断された都市河川にデザインを取り込むことで、人・まち・水辺をゆるやかにつなぐことができた。このデザインを実現できたのはコンペから施工に至まで提案者がデザイン監修者として関与し続けたことによるところが大きく、このことも未来のまちづくりに参考になると考える。

3) 住民参加による利活用によるシビックプライドの形成&ブランディング

ここを舞台に地域住民が活動・交流していくことで、シビックプライドの形成や、まちのブランディングに繋がりが、やがて関わる人々が誇りを持って参加してもらえるようになることは、協働により質の高い公共空間の維持活動につながっていくと期待している。

地域にとっては人が近付くことのできる貴重な水辺空間でもあり、今後、益々の利活用が期待できる。

4) 新たなバリューチェーンへの期待

周辺施設との連携やさらなる地域との協力を進めていくことで、より広範なまちづくりにおいて、新たなバリューチェーンが生み出されることも期待できる。



トコトコダンダン
tocotocodandan



提供：岩瀬諒子設計事務所